

日常のかたち

—— 美学・建築・文学・食

対馬 美千子
山口 恵里子 【編集】



日々の生活の中でわたしたちは、歩き、詩作し、住まい、音を奏で、食べ、死者とも交流する。他者に焦がれ、あるいは背を向けながら、飲みも痛みも、愛おしさも怒りも日々埋め込んでゆく。そのような毎日に変奏されながら、日々の襞の折り目を豊かにたおやかに重ねてゆく。本書は、そのような襞のなかに、美学・建築・文学・食を通して分け入り、日常を見つめ直している。

第一部 美学

日常の美学

——世界の創出

キャンブ・ライフのモダニズム

——ミネ・オークボ『市民13660号』

共に「住まうこと」

——西内健善と日常の美的想像力

足の跡、手の跡、息の跡

——リチャード・ロングの彫刻における消散

第二部 建築・家政

建築のファイナリティと適応

『ポイントンの蒐集品』に表象された美の民主化をめぐる攻防

ヴィクトリア朝イギリスのドローイングルームと

スピリチュアリズム ——ミドルクラス女性の交霊会

へハウス」のパラダイムシフト

——空襲と原爆の時代のドラマ

ノスタルジア

——ジョン・チヴァー「泳ぐ人」における家庭と不在の詩学

第三部 文学

共有する日常

——女工エレン・ジョンストンの詩と読者

日常のサウンドスケープ

——ベケットのラジオ劇『すべて倒れんとする者』

ピアノのお稽古とその影響力

——作家になったアメリカの少女たち

日常の表現の渴望と国民共生意識の醸成

——アルジェリアの日本式マンガ創作

第四部 食

「倫理的な食」の陥穽を越えて

NETFLIX 北朝鮮漂流記『愛の不時着』における

「ニュートロ」な男性像 ——料理する人民軍と共に

ヒースクリフの飢え

——『嵐が丘』の日本語訳にみる食

齋藤 百合子

アン・マクナイト

(ノミンエルデネ・エンヒバイヤル 訳)

ミアム・サス

(早川唯 訳)

山口 恵里子

半田 るみ子

三宅 敦子

長谷部 寿女士

竹谷 悦子

宮本 陽一郎

中田 元子

対馬 美千子

馬籠 清子

青柳 悦子

五十嵐 泰正

イ・ヒャンジン

(上田由至 訳)

ジュデイス・パスコー

(ノミンエルデネ・エンヒバイヤル 訳)

